

研究・調査報告書

報告書番号	担当
13	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol mortality in Russia: A historical perspective ロシアにおけるアルコールが関与した死亡 歴史的観点からの検討	
執筆者	
Stickley A, Razdovsky Y, McKee M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Public Health 2009; 123: 20-26.	
キーワード	
歴史上のロシア、急性のアルコールによる死亡、アルコール代替飲料、飲酒文化	
要 旨	
<p>目的： 帝政ロシア後期及びソビエト連邦初期におけるアルコール供給の変化と、それに伴う健康への影響を検証する。</p> <p>方法： ヨーロッパ内のロシアに属する50の地域と、モスクワ、サンクトペテルブルグの2都市における1860-1930年代の公的文献もしくは医学書から、アルコールが関与したとみられる急死についての統計学的データを使用した。この統計データを、アルコール飲料の入手しやすさが変化することによって供給が増減する変化と照らし合わせて検証した。</p> <p>結果： この検討の対象となったロシア初期において、アルコール飲料の入手しやすさが変わると共に、アルコールが関与する急死例数は急激に変化した。しかし、ある時はアルコール飲料を入手しにくいように制限し、それに伴って急死例数が減ったとしても、アルコール代替飲料のようなものですぐに替わりのものを作ってしまう現象がしばしば見られた。</p> <p>結論： 歴史的教訓によると、今も昔もアルコールを制限されればすぐにアルコール代替飲料を発明してしまうため、危険な飲酒という問題を何とかしようとするならば、法的非法的に全てのアルコール飲料を何とかしなければ解決できないのである。</p>	